

チョウジソウ（丁字草）

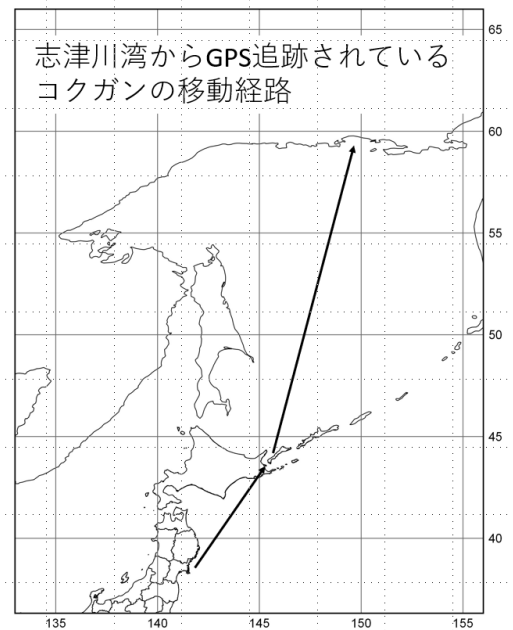
河畔や湖畔の湿地に生育する2cm程の美しい花を咲かせる多年草です。全国的に開発などにより自生地は減少していますが、伊豆沼の一部地域には自生地が残されています。

Vol.121

令和2年度7月号

志津川湾でGPSを装着したコクガンがロシア・マガダン周辺に到着しました！

南三陸ネイチャーセンター友の会と財団の共同研究で、1月下旬に志津川湾でGPS装着した4羽のコクガンのうち1羽が、国後島南部を經由してオホーツク海を縦断し、5月下旬にオホーツク海北部沿岸のマガダン周辺に到着しました。コクガンはロシア北極圏で繁殖し、マガダン周辺は中継地となります。春の渡りでオホーツク海縦断経路がわかったのは3例目となり、今後の移動経路等の動向を注視しています。

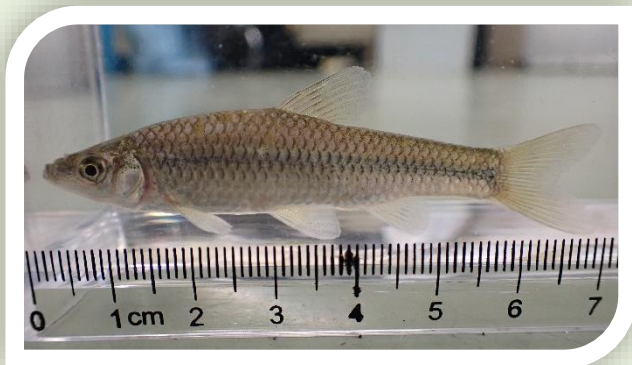


ミヤギテレビの取材がありました！



6月5日、ミヤギテレビさんが外来魚防除活動の取材に来ました。バス・バスターズは、コロナで自粛中ですが、外来魚は待ってくれません。財団では、3密を避けるため、今年は人工産卵床や、電気ショッカーボートなどによる防除活動を職員のみで行っています。ミヤギテレビさんは朝から撮影。初夏の気持ちのいい天候の中、電気ショッカーボートに乗船して頂きました。獲れたオオクチバスはたったの2匹。本当に姿を見かけなくなりました。代わりに増えてきたエビや小魚、フナやナマズ、水鳥達。まだ、生態系の復元は道半ばですが、映像を通じて復元しつつある沼の姿を伝えられればと思います。

伊豆沼・内沼生き物図鑑



モツゴ

体長約6cmのコイの仲間。沼でもっとも数の多い魚です。オスが卵を守る習性があり、春から初夏にかけて産卵します。沼ではハスの茎に卵を産み付けているのをしばしば見かけます。



ゼニタナゴ

東日本のみで生息する希少魚で、伊豆沼・内沼はその最大の生息地です。オオクチバスの食害によって一時姿を消しましたが、近年の防除活動により、沼でその姿が見られるようになってきました。



ヘラブナ

歴史的に見ると、ゲンゴロウブナを品種改良して生まれたのがヘラブナです。ほかのフナ類と比較して成長が早く、約3年で30cmほどになります。おもなエサは植物性プランクトンです。



カムルチー

ライギョ（雷魚）と呼ばれる、韓国やロシアなどから来た外来魚です。肉食魚ですが、お腹の中は空っぽのことが多く、餌を捕まえるのが下手な魚なのかもしれないと思っています。



ギバチ

宮城県ではギンギョとも呼ばれるナマズの仲間。沼では水質汚濁で見られなくなりました。この魚も東日本のみで生息する固有種です。サンクチュアリセンター（鳥館）で展示しています。



ウナギ

土用の丑の日でなじみ深いウナギ。最近の研究で、ウナギがエビ類を主に食べていることが明らかになりました。近年、エビ類が増えている伊豆沼はウナギにとって魅力的な生育地かもしれません。

